

猛暑に注意！高温に対応した管理を徹底しましょう！



新潟地方気象台が8月2日に発表した1か月予報によると、向こう1か月間の気温は平年よりも高く、**期間の前半は気温がかなり高くなる**見込みです。飽水管理で土壌水分の保持に努め、高温への備えをしてください。

1 飽水管理を継続してください

- 7月中旬以降、降雨のない天候が続く、用水が限られた状況となっています。地域の用水状況に応じて、有効に水を使いましょう。
- 登熟初中期はデンプン蓄積が盛んな時期のため、可能な限り飽水管理を継続し、田面を乾かすことがないように管理してください。
- 極端な高温やフェーンが予想される場合は、速やかに湛水して稲への水分ストレスを軽減しましょう。ただし、根腐れ防止のため湛水は一時的なものとしてください。
- 完全落水はできる限り遅くし、出穂後25日以降をめやすとしてください。

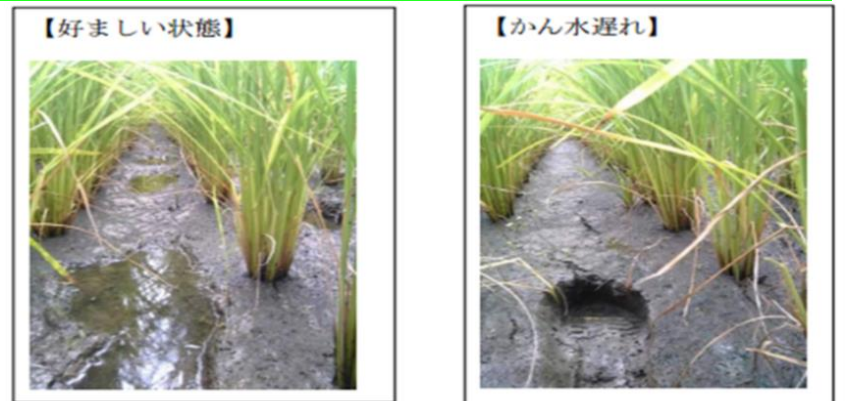


図 飽水管理の状態（足跡に水が残る程度）

2 ほ場ごとの収穫適期を確認してください

(1) 出穂期と収穫適期のめやす

- 高温の影響で、全般に出穂が平年より早まっています。刈り遅れによりこれまでの管理努力が無駄にならないよう、ほ場ごとの出穂期を確認したうえで収穫計画を立てましょう。
- 特に大規模生産者は、収穫の中心が収穫適期となるよう、無理のない計画としてください。

表 出穂期と収穫適期のめやす（8月2日現在）

※ 早生品種は高温条件での登熟となる可能性が高いことから、**胴割粒や基部未熟粒の発生軽減のため、出穂後の積算温度を通常より50℃早めましょう。**（飼料用の新潟次郎は除く）

	品種名	出穂期	出穂後の積算温度	収穫適期のめやす
早生	新潟次郎(加工用)	7月18日頃	925℃	8月21日頃※
	新潟次郎(飼料用)		1,000℃～	8月24日頃～
	五百万石	7月20日頃	925℃	8月23日頃※
	つきあかり	7月21日頃	925～950℃	8月24～25日頃※
	わたぼうし	7月23日頃	925℃	8月26日頃※
	こしいぶき	7月26日頃		8月30日頃※
中生	こがねもち	7月28日頃	1,000℃	9月4日頃
	コシヒカリ	8月1日頃		9月9日頃
		8月4日頃		9月13日頃
		8月5日頃(中山間地) 8月14日頃(山間地)		9月18日頃(中山間地) 9月30日頃(山間地)
晩生	みずほの輝き	8月10日頃	1,050℃	9月22日頃
	いただき	8月11日頃	1,050℃～	9月23日頃～

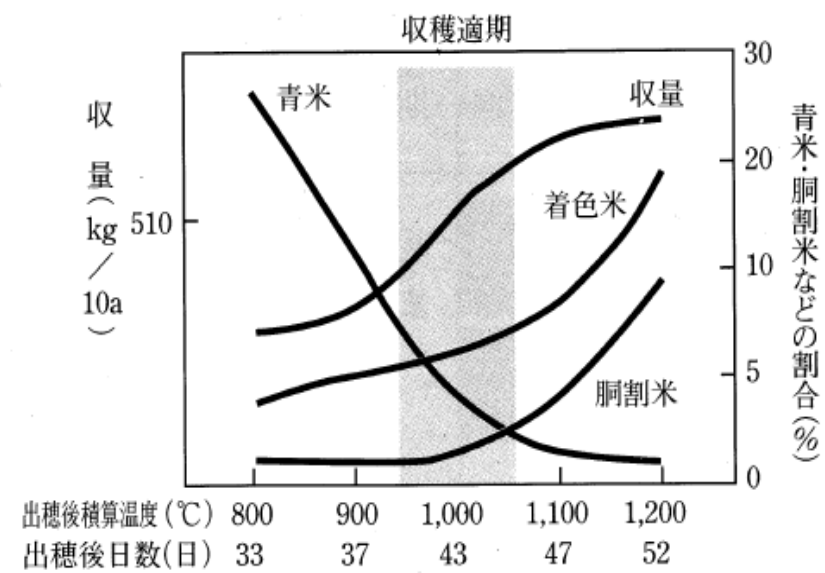


図 出穂後積算温度と玄米品質

※積算温度は8月3日以降は1か月予報の予測値を使用。今後の天候で適期が前後する場合があります。
※中山間地、山間地は関山のアメダスデータを、その他の平地は高田のアメダスデータを使用した。

※ 飼料用米（新潟次郎、いただき）は、登熟と立毛乾燥を期待し、記載積算温度以上を確保すること。

(2) ほ場ごとの収穫適期判断

- 積算温度は一つのめやすとして活用し、実際の収穫適期は右図を参考にほ場ごとに判断してください。
- ほ場ごとの収穫適期は、穂全体の85～90%が黄化し、穂の基部に緑色の籾が一部残っている頃になります。
- 茎葉の色だけで収穫適期は判断できませんので、必ず籾の黄化率を確認した上で、ほ場ごとに収穫適期を判断してください。

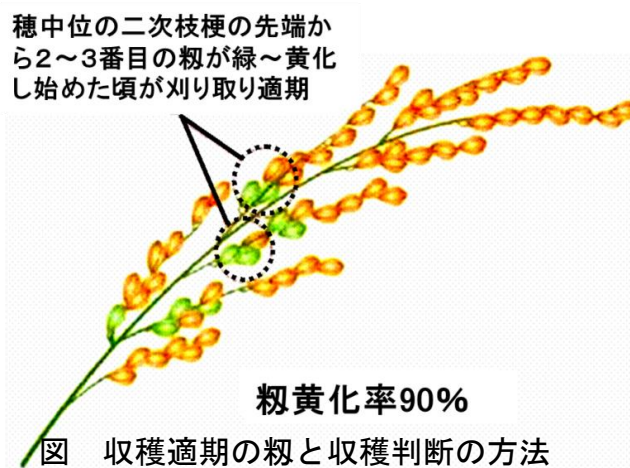


図 収穫適期の籾と収穫判断の方法

適期確認の流れ

- ① 1次枝梗が9本程度の平均的な穂を選ぶ
- ② 中位の1次枝梗の中から2次枝梗を探す
- ③ 2次枝梗の先端から2, 3番目の籾の黄化を見る
- ④ 2, 3番目の籾が黄色に変わりかけている頃がその穂の収穫適期
- ⑤ 同様に10本の穂を調べ、8本以上が当てはまれば、そのほ場の収穫適期

